

# 浄土宗日常勤行式

## 一、香 偈

願我身淨如香炉  
ねんねんぼんじょうかいじょうこう

願我心如智慧火  
くようじつほうさんぜぶ

供養十方三世仏

(1)

## 二、三宝礼

一心敬礼十方法界常住仏  
いっしんぎょうらい じつぽうほう かいじょうじゅうぶ  
一心敬礼十方法界常住法  
いっしんぎょうらい じつぽうほう かいじょうじゅうほう  
一心敬礼十方法界常住僧  
いっしんぎょうらい じつぽうほう かいじょうじゅうそう

(2)

## 三、四奉請

奉請十方如来入道場散華樂  
ほう ぜい し ほう じょうらい じつとう ちようさん かく  
奉請釈迦如来入道場散華樂  
ほう ぜい せ きや じょうらい じつとう ちようさん かく  
奉請弥陀如来入道場散華樂  
ほう ぜい び た じょうらい じつとう ちようさん かく

(3)

ほうぜい かん にん せい し しよたい ほ さ じつとうちようさん かるく  
奉請観音勢至諸大菩薩入道場散華樂

四、懺悔偈 さんげげ

がしやく しよぞう しよあくごう  
我昔所造諸惡業  
じゅうしん ご い し しよしよう  
從身語意之所生  
かい ゆ む し とん じん ち  
皆由無始貪瞋痴  
いっさい がこん かいさん げ  
一切我今皆懺悔

(4)

五、十念 じゅう ねん

六、開經偈 かいきようげ

むじよう じん じん みみようほう  
無上甚深微妙法  
がこん けんもん とくじゆ じ  
我今見聞得受持  
ひやくせんまんごう なんそうぐう  
百千万劫難遭遇  
がんげ によらいしんじつぎ  
願解如来真實義

(5)

七、四誓偈 しせいげ

がごんちようせ がん ひっ し むじようどう  
我建超世願 必至無上道  
せい ふじようしようがく が お むりようごう  
誓不成正覺 我於無量劫  
ふさい しよびんぐ せい ふじようしようがく  
普濟諸貧苦 誓不成正覺  
がし じようぶつどう がい だいせしゆ  
我至成仏道 不為大施主

(6)

名聲超十方 みやうしやうちやうじつぽう  
離欲深正念 りよくじんしやうねん  
為諸天人師 いしよてんにんし  
消除三垢冥 しやうじよさんくみやう

究竟靡所聞 くきやうみしよもん  
淨慧修梵行 じやうえししゆぼんぎやう  
神力演大光 じんりきえんだいこう  
廣濟衆厄難 こうさいしゆやくなん

誓不成正覺 せいふじやうしやうがく  
志求無上道 しぐむじやうどう  
普照無際土 ふしやうむさいど  
開彼智慧眼 かいひちえげん

滅此昏盲闇 めつしこうもうあん  
功祚成滿足 くそじやうまんぞく  
天光穩不現 てんこうおんぷげん  
常於大衆中 じやうおだいししゅうじゅう

閉塞諸惡道 へいそくしよあくどう  
威曜朗十方 いようろうじつぽう  
為衆開法蔵 いしゆかいほうぞう  
説法獅子吼 せつぽうししく

通達善趣門 つうだつぜんしゆもん  
日月戰重暉 にちがつしゅうじゅうき  
廣施功德寶 こうせくどくほう  
供養一切仏 くやういつさいぶつ

具足衆徳本 ぐそくしゆとくほん  
如仏無礙智 によぶつむげち  
等此最勝尊 とうしさいしやうそん  
虛空諸天人 こくうしよてんにん

願慧悉成滿 がんねしつじやうまん  
通達靡不照 つうだつみふしやう  
斯願若剋果 しがんにやつこうか  
當雨珍妙華 とううちんみやうけ

得為三界雄 とくいさんがいおう  
願我功慧力 がんがくえりき  
大千応感動 だいせんおうかんどう

八、本誓偈 ほんせいげ

みだほんせいがん

弥陀本誓願

ごくらくしやうもん

極樂之要門

じやうさんとうえ

定散等回向

そくしやうむしやうしん

速証無生身

(10)

九、十念 じゅうねん

十、撰益文 しやうやくもん

こうみやうへんじやう

光明遍照

じつぼうせかい

十方世界

ねんぶつしゆじやう

念仏衆生

せつしゆふしや

撰取不捨

(11)

十一、念仏一会 ねんぶついちえ

十二、總回向偈 そうえこうげ

がんにしくどく

願以此功德

びやうどうせいつさい

平等施一切

どうほつぼだいしん

同發菩提心

おうじやうあんちやくこく

往生安樂国

(12)

十三、十念 じゅうねん

十四、総願偈 そうがんげ

衆生無辺誓願度 しゅじょうむへんせいがんど  
法門無尽誓願知 ほうもんむじんせいがんち  
自他法界同利益 じたほうかいどうりやく

煩惱無辺誓願断 ぼんのうむへんせいがんだん  
無上菩提誓願証 むじょうぼだいせいがんしょう  
共生極樂成仏道 くしやうごくらくじやうぶつどう

十五、三唱礼 さんしやうらい  
(三唱を三回繰り返す)

南無阿弥陀仏 なむあみだぶつ  
南無阿弥陀仏 なむあみだぶつ  
南無阿弥陀仏 なむあみだぶつ

十六、送仏偈 そうぶつげ

請仏随縁還本国 しやうぶつずいえんげんほんこく  
願仏慈心遥護念 がんぶつじしんしやうごねん

普散香華心送仏 ふさんかうげしんそうぶつ  
同生相勸尽須来 どうしやうそうかんじんしゅらい

十七、十念 じゅうねん

【十念】では、「なむあみだぶ」を八回お称えし、続けて「なむあみだぶつ なむあみだぶ」とお称えします。

【念仏一会】では、「なむあみだぶ」を繰り返してお称えします。日常勤行の時は、三百遍・五百遍など回数を決めてお称えされてもよいでしょう。

(16)

### お念仏の心得

お念仏は、御先祖様や亡者のためにだけお称えす

るものと思われがちです。しかし、お念仏は、人々を極楽へ往生させるために阿弥陀様が選ばれた唯一の方法です。まずは、御自分の往生のためにお念仏をお称え下さい。

合掌

(17)

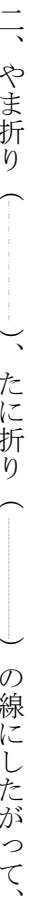
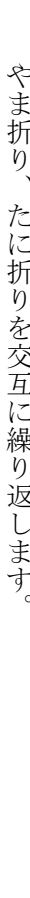
編集 和歌山教区浄土宗青年会  
平成二十一年一月 第五版



〈表紙ラベル〉

浄土宗のお勤め

## ▼△経本の作り方▼▲

- 一、外周部の線（のりしろ部分のはのりしろ部分の外側）にそって切りとり、ページ順にのりしろ部分にのりをつけて繋ぎ合わせます。
- 二、やま折り（）、たに折り（）の線にしたがって、やま折り、たに折りを交互に繰り返します。
- 三、本体の一分分と同じ大きさの表紙と裏表紙を、厚紙などで作って下さい。
- 四、表紙に表紙ラベルを貼り、表紙と裏表紙を本体に付ければ完成です。

（なお、文字が小さくて読みにくい時は、用紙をA4等に拡大印刷してお作り下さい。）